

講演候補者

	職業	参考(略歴等)	選定理由
ヤングキャベツ (NAMARA) (中静祐介・高橋なんぐ)	芸人	全国初の地方発信型お笑いプロダクションで「新潟お笑い集団NAMARA」として活動しており、主にお笑い芸人が多数所属している。これまでの新潟にはなかったお笑い産業を確立すべく、1997年の立ち上げから様々な活動を行っている。ライブ活動、テレビ、ラジオ、イベント出演などのほか、学校での講演、企業・団体の研修会、様々な社会問題を扱った討論会など 様々な現場に笑いを通じて関わり、既存の「お笑い」のイメージにはなかった活動形態が話題を呼んでいる。ナマラとは、新潟弁で「とても・ものすごく」の意味。 https://www.namara.info/index.html	高橋なんぐ氏は「お笑い授業」として新潟県内をはじめ、全国各地で講演・授業をおこなっており、その数は1000回を超える。取り扱う題材もいじめや命の大切さなどのシリアスなテーマも多い。また、中静祐介氏は県内のテレビ番組にも多く出演しており、タレントとして視聴者に「伝える」能力が高く、本例会の内容を的確に伝えることができると考える。なによりも二人とも長岡出身であり、長岡まつりに込められた想いを伝え発信するアイコンとして最適であり、本例会の効果を最大限に高められる出演者として今回選定に至りました。 高橋なんぐ「お笑い授業」： https://youtube/HN14b3xUbhQ
渡邊洋一	戦場のカメラマン	学生時代から世界の紛争地域を専門に取材を続ける。戦場の悲劇、そこで暮らす人々の生きた声に耳を傾け、極限の状況に立たされる家族の絆を見据える。イラク戦争では米軍従軍（EMBED）取材を経験。これまでの主な取材地はイラク戦争のほかルワンダ内戦、コソボ紛争、チェチェン紛争、ソマリア内戦、アフガニスタン紛争、コロンビア左翼ゲリラ解放戦線、スーダン、ダルフル紛争、パレスティナ紛争など。	世界各地の戦場に取材に行っており、話題性もありますが、地域独自のテーマを取り扱う本例会の趣旨と離れるための選定には至りませんでした。
ゴルゴ松本	タレント	お笑いタレントで漢字研究家。お笑いコンビTIMではボケを担当。少年院等で命の授業を行っている。ワタナベエンターテインメント所属。2011年からボランティアで少年院での「命の授業」と題した活動を始め、メディアにもたびたび取り上げられるようになる。2015年にはこの活動をまとめた著書『あっ!命の授業』を出版	話題性あり。「命の授業」を実際に聴講したところ、命の大切さは伝わるが、地域独自のテーマを取り扱う本例会の趣旨と離れる為今回選定には至りませんでした。
安田順平	ジャーナリスト	イラクとシリアで武装勢力に身柄を確保された経験が有る。政府が渡航回避を求めている際に渡航して武装勢力に拘束されている為、依頼時良く打合せをする必要が有る。	話題性はありますが、出演者の経歴などに関心が集中し、本例会の趣旨が伝わりきらないことが考えられるため今回の選定には至りませんでした。